

第1回風景デザインサロン●開催レポート

第1回風景デザインサロンの実施状況

去る平成19年9月26日(水)に、福岡市薬院にて、第1回風景デザインサロンを開催しました。

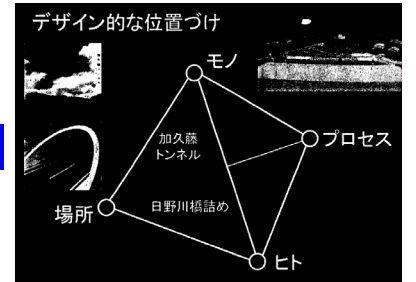
- 講師：熊本大学大学院 星野 裕司 准教授
- テーマ：場所の見方・捉え方とデザインの方向づけ
- 開催時間・場所：18:30~21:00 / I CONE (福岡市薬院)
- 参加人数：24名

第1回目のサロンは、星野先生のお酒とタバコでリラックスされた雰囲気の中での講演で、顔を赤らめた参加者から活発な質問もあり、アツという間の2時間半でした。

星野先生からは、「場所の見方・捉え方とデザインの方向づけ」について、加久藤トンネルと日野川橋詰めのデザイン事例を紹介しつつ、フランキーなご教示がありました。



星野です。よろしく!



デザインの位置づけは、チャートで考えよう!

講演内容の骨子

1. デザインの立脚点について

デザインを考察する際、プロジェクト毎に思考するのも良いが、「モノ・場所・プロセス・ヒト(ユーザーの視点等)」を、チャート(“モノ”を頂点にした、正三角形の四面体)で考えると興味深いものとなる(右図参照)。

2. 加久藤トンネルのデザイン

- 1) 外部空間における大きな考え方は、全体トンネル群のゲートとしての位置づけ、空間としての坑口デザイン、およびトンネル出入口の空間構成について、配慮を行っている。
- 2) えびの側の坑口デザインは、原案では上下線の坑口を並列に配置した形となっていたが、デザイン案では、上下線それぞれ地形に合せ、下り線を30m前出した案となっており、下り線出口のデザインに配慮することによって、上り線が良く出来ないか景観検討を行った。
- 3) トンネルの内部空間では、検査路の高さを縁石高に押さえ、柵をなくすことにより、ドライバーの圧迫感を軽減している。また、下り線では、アクセント照明(坑口付近1km毎に、茶・緑・水色・紫色の照明灯)を設置し、軽快さを出している。

3. 日野川橋詰めのデザイン

- 1) 当初、長崎県北振興局では、修景は橋梁付属物(高欄・親柱・化粧板)で工夫するものと考えていた。しかし、本来の修景は、群として存在する3橋梁周辺の人々の動き、空間のまとまりで考える必要があった。
- 2) そこで、人(こども)の動きを整理し、道草の場所となるよう、動線計画を立案した。こどもは、縁石の上など、“縁”に上るのが好きであり、こどもをメインに考えた。

4. 「場所の見方・捉え方とデザインの方向づけ」のまとめ

- 1) デザインの方向づけは、与えられた課題に対して、改めて問題提起し取り組む必要がある。
- 2) そのためには、現場へ行き、敷地範囲を無視してでも、場所を広げてみる必要がある。そして、その中で、まとまりや組み合わせ(構造)を見定める必要がある。
- 3) また、デザインの方向づけを検討する時、地図(図面)をよく見る必要があり、構造の模式図(ポンチ絵)をたくさん描くことが重要である。しかし、デザインする際、少しはあきらめることも必要である。なお、地図や模型は、1/1,000からが取り組み易い。
- 4) 「みえてはいるが誰もみていないものを みえるようにするのが、詩だ」という、先哲の言葉を贈ります。



与えられた課題は、問題提起しよう!

自由な質疑応答

星野先生のご講演の後、少し、お酒も入ったところで自由な意見交換をしました。

コンサルタントのメンバーや、学生さんから、現場での悩みや常日頃思っていたこと等がざっくばらんな雰囲気の中で星野先生にぶつけられました。主な質疑応答は以下のとおりです。

- 1) (質問)トンネルの内部には、光沢のある白いタイルを貼ることは、設計で決められているのでしょうか？
 (回答)トンネル内部のタイルの高さや白色系にすることは、基準で決められており、なるべく明るくしなさいというのですが、少し白すぎるとは思います。
- 2) (質問)経済効率上、トンネル延長を延ばすことは、難しいと思われませんか？
 (回答)デザイン面からの必然性で、事務所所長も納得済みの上で、設計を実施しております。
- 3) (質問)トンネル検討において、委員会を立ち上げたということですが、その効果はあったのでしょうか？
 (回答)委員会というよりは、勉強会の場をつくって頂いたということで、提案しあって進めていった、ということに価値があったかと思います。例えば、交通心理学の専門家も交え、照明について実験を行いながら進めていくことも出来ました。
- 4) (質問)熊本の新幹線駅舎のデザインは、「場所の見方・捉え方」の観点等を考慮し、どの様になるのでしょうか？
 (回答)駅舎そのものを見る人は少ないと思っており、一つは車窓体験(駅を通り過ぎる人)の視点と、一つは東口と西口で地形が相違する景観において、外側から発想することで、内側の使いやすさも変わってくると思います。
- 5) (質問)自然に馴染ませた、人の手が入っていない様に見せる青森の海岸デザインと、人工的なトンネルの坑口デザインは、逆に人工的な海岸デザインと、人の手が入っていない様に見せる坑口デザインもあり得ますが、その使い分けは何処で決めたらよいのでしょうか？
 (回答)基本的には、本当に自然なものは出来ないと思っておりますので、素材が何であろうと人工物であることを意識して作っています。只、自然が勝手に人工物を馴染ませる、自然へ変更させる、ということがあると思いますので、自然が健康である余地を残しておくことが大事だと思います。
- 6) (質問)広場をデザインする場合、「広場ってなんだらう」と問い直し、使ってくれる人のことを考えることも必要ですが、「場所の見方」で、最初にどの地図から見ていったら良いのでしょうか？
 (回答)仲間先生の話から1/25,000から見ようとは思いますが、役所からは、その設計範囲の図面しか貰えないので、都市計画図とか範囲の広い図面を要求しています。模型は、1/1,000から検討するのが良いようです。
- 7) (質問)橋詰め広場のデザインにおいて、広場と合せた親柱のデザインと、広場から川へ下りるデザインの考え方を教えてください。
 (回答)親柱のデザインについては、人が広場全体を眺めてもらえるよう、小さくしてセットバックさせました。造形的には、広場に斜めの線が多いので、斜形のデザインを施しました。川への下り方ですが、広場の真ん中付近を一番高くしており、両脇から入ってもらい、階段状の箇所では座ってもらえるようにしました。また、背後には、交通量の多い道路があるので、安心感ができるように、道路と仕切ったようなデザインにしました。さらに、HWL以下では、仕上げは石張りにし、安全性に多少配慮しました。
- 8) (質問)河辺に柵を立てるとかの議論はありませんでしたか？
 (回答)ありましたが、勾配が緩いのとHWLの余裕高から人が入れるデザインなので、問題ありませんでした。
- 9) (質問)樹木の種類と、照明灯はあるのでしょうか？
 (回答)樹木は、佐世保市の木であるハナミズキと1本のみ橋の名前からシノキを植えており、視線を演出するように配植しております。照明灯は、未だ保留にしております。
- 10) (質問)デザインの取りかかりで、住民参加手法を用いたりしますが、場所を見て、地図をみて、模型を作るというプロセス以外に、デザインの取りかかりは、どのように探されますか？
 (回答)島原の有馬通りのデザインでは、地元の人(子供達やおばちゃん等)と話しをすることから発想しました。まさしく、手法として、住民参加やワークショップ等があると思います。
- 11) (質問)場所をどう見ていくかという点で、“九州”は意識されておられますか？ あるとすれば、どのようなことでしょうか？
 (回答)加久藤トンネルの場合でも、“九州らしさ”は特に考えておりません。“らしさ”は、10年20年、使われてきて出るものと思っており、私の場合、それを主題として考えません。自然とか地形とか、場所をみます。“らしさ”は演出するものではなく、作っていくもの、発見していくものと考えます。

次回の予定

次回サロンの予定は、次のとおりですので、皆さん奮ってご参加下さい。

- 講師 : 徳永哲氏 (株)ST環境設計研究所取締役社長)
- テーマ : 景観デザインやまちづくりに関わる仕事
- 開催日時 : 平成19年10月26日(金) 18:30から2時間程度
- 開催場所 : I CONE (福岡市薬院一丁目) 予定



参加者の質問も白熱です！